

平成29年度 学校評価		
学校教育目標	社会的に自立し、社会の一員としての自覚と責任を備え、自律的・創造的で活力ある生徒を育成する。 ア 「ちゃんとした生徒」、「人の役に立つ生徒」、「自分に自信を持っている生徒」を育成する取組を進めることで、生徒の自尊感情を高める。 イ 商業教育を中心とした専門教育と普通科教育を併せ持つ総合学科の特色を生かし、個別指導を充実することでオンリーワン教育を推進する。 ウ 地域ニーズに基づく取組や開かれた学校づくり、安全で安心な学校づくりを進めることで、信頼される学校づくりを推進する。	重点目標 ア 生徒の自尊感情を高める教育の推進 イ ルールやマナーを守り、情緒が安定したモラルの高い生徒の育成 ウ 「人間的ふれあい」に基づく生徒指導や特別支援教育の推進 エ 総合学科の教育及びオンリーワン教育の充実 オ 開かれた学校づくり及び安全で安心な学校づくりの推進 目標 <b>(1・2の回答には必ず改善案を文章表記ください。)</b>

達成状況 (A優れている B良い Cおおむね良好 D要改善) ※A90%以上 B80%以上 C60%以上 D60%未満

領域	評価の観点	評価項目	実践目標	取組内容と改善策	取り組み状況と改善方法	評価	学校関係者評価
学校運営全般	開かれた学校づくり	教育目標等の達成	教育目標の達成に向けて各教職員・各部・学年が意欲的に取り組む。	・「学校経営の重点」の教育目標を教職員が共通理解し、部・年次の連携を図り、組織的・意欲的に取り組む。	【取り組み状況】 ○今年度の学校経営の重点を職員会議等で提示し、各部・各年次の取り組むべき課題や目標の明確化に努めた。 ○改革の年であり、教育目標を全職員が共通理解し、各部・主任がリーダーシップをとり、横の連絡調整をおこない、目標達成のため取り組んだ。 【改善の方策】 ●新たな取組の課題を明確にし、年度初めに年次会や部会などで共通理解を図り、更なる意識の向上を図る。	B	【評価について】 良好 適切な評価である 【学校評価についてのご意見】 ① 保護者のわからないが30%以上は、どのように理解してよいのか。 ② 生徒のプレゼンテーション能力が高まっている。 ③ 学校評価は高いものであり、信頼しうる内容である。
		学校事務	教育計画に沿った効果的な予算運営を図る。	・新行財政構造改革の趣旨を教職員が共通理解し、教育計画に沿った効果的な予算運営を図り、経費の節減に取組む。 ・月ごとに経費節減の具体的な目標を掲げて意識を高める。	【取り組み状況】 ○職員会議等で学校予算の現状を説明し、理解と協力を求め、需用費や旅費経費の削減につなげた。 ○委託料の年間計画を立て執行した。 【改善の方策】 ●教職員に状況を説明し、節約意識を高める。	B	【評議員のご意見】 ① 生徒の意識が変わってきた。中学校は生徒の変化がわかっている。 ② 生徒がしっかりしてきた。 ③ 卒業式は1年・2年生の態度が良かった。感動した。 ④ 子どもは親に話している。心のこもった取組をしている。 ⑤ 生徒と先生が仲が良い。 ⑥ 若者に、人口流出の話をするのはどっかと思う。一度出して、良いものを持って帰ってほしい。 ⑦ 和田山高校にきている生徒の地域が限定している。近隣の普通科しか知らない。総合学科のPRに力を入れほしい。 ⑧ ほかの高校にいってたら、このような上級学校には行けない。丁寧に進学指導をしてほしい。 ⑨ この評価をどのように捕らえているのか。 ⑩ 学校の子どもを理解する力は高い。
		勤務時間の適正化	定時退勤日を設定し、完全実施を目指す。教職員の職務に対する意識改革を行い、学校業務の改善に積極的に取り組む。	・定時退勤日を火曜日と定め、完全実施を目指す。 ・毎週火曜日をノー活デーを実施する。 ・生徒完全下校時間を定め実施する。(18:00)	【取り組み状況】 ○補習の時間設定を勤務時間内に変更した。火曜をノー活デーとし、ホームページに掲載した。生徒の完全下校時間への意識を高めた。年間平均超過勤務時間(月)を約9時間短縮した。 【改善の方策】 ●今年度より、多くの取組をおこなったが、教職員の意識改革が大きな問題となった。IT機器を活用した効果的効率的な教育活動と、意識改革に取組む。	C	
開かれた学校づくり	家庭や地域への情報発信	学校のホームページや各種の通信等マスメディアを活用して、学校のさまざまな情報を公表する。	・学校ホームページは、ユニバーサルデザインに配慮し、必要な情報を迅速に提供する。 ・地元ケーブルテレビ、新聞、報道機関を積極的に活用する。 ・FaceBook、学校だより、生徒会新聞、年次通信の発行を通して学校の情報を提供する。	【取り組み状況】 ○インターネットに活用頻度を上げ、SNSの活用を始めた。 ○新聞社への取材依頼、ケーブルテレビの取材以来をするが、新聞社の取材回数は少なかった。 ○保護者へのメール配信サービスは効果的だった。 【改善の方策】 ●ホームページ、Facebookの活用について、効果的な利用法を考える。 ●メール配信は、全保護者の登録を学校とPTAで依頼する。	A		
	学校評議員制度等を利用した学校運営の推進	学校評議員会を充実させ、学校運営に反映させる。	・十分な資料を準備し、学校評価も含めた学校運営全般について意見を求め、学校運営に反映させる。 ・公開授業や学校行事の案内を行い、積極的な参加を促し、学校への理解を深める機会とする。	【取り組み状況】 ○校長の諮問機関であり、学校経営への意見を求めた。 【改善の方策】 ●学校評議員会の意見を全教職員で共有する。	A		
生徒指導	生徒の内面的理解に努める工夫	生徒面談等を密にし、定期的に教育相談係と連携し問題行動等の未然防止策の工夫を行う。	・全員面談など、あらゆる機会を通して生徒に接し、生徒の内面理解をおこなう。 ・保健部と定期的に協議・情報交換を行い、指導方法を共通理解する。 ・LHRが生徒の内面理解の場となるよう計画的に運営する。	【取り組み状況】 ○1年生の全員面談を行い、問題解決の教員と話しやすい関係づくりに努めた。 ○年3回のいじめアンケートを実施し、いじめの早期発見・早期解決に努めた。 ○5月県立教育研修所から指導主事を迎え研修会をしてから、いじめ未然防止LHRを実施した。 【改善の方策】 ●全校生徒の全員面談を実施する。 ●保健部と連携し、スクール・カウンセリング等の活用も視野に入れた取組をおこなう。	A		
		生徒の自主・自立を育む指導の工夫	生徒の自主性や主体性が図られるように、生徒会活動の活性化に努める。	・生徒会行事を生徒会執行部を中心に、自主的・主体的な活動として生徒会活動を機能させる。 ・和祭や学校行事等に生徒が前面に出て活動ができるようにサポートする。	【取り組み状況】 ○全校集会(月一)や文化祭、体育大会、対面式、離任式、球技大会等の活動において、生徒会が積極的に関わり、自主性や主体性を育んだ。 ○風紀委員会による挨拶週間、美化委員会による美化週間の実施等、生徒会活動の活性化に努めた。 【改善の方策】 ●さらに、生徒会本部だけではなく、行事以外の各種委員会の取り組みを活性化させる。	B	
		部活動の活性化に努める。	・顧問が必ず指導に携わり、指導内容の充実と積極的な部活動の運営を図る。 ・効果的な部活動運営のあり方について研究を進める。	【取り組み状況】 ○体験入部期間の設定や部員勧誘ポスターの掲示を早め、新入生の入部を促した。 ○部費の予算要求について調整を図り、予算編成の適正化に努めた。 【改善の方策】 ●部活動全員加入をめざす。	B		
進路指導	進路指導体制の充実	年次と連携し、3年間を見通して計画的・組織的な進路指導を推進する。	・進路指導委員会を定期的に開催し、各年次と連携を図り、組織的な指導計画を設定する。	【取り組み状況】 ○3年次の進路検討会を必要に応じて実施し、生徒の進路情報の共有化を図るとともに、職員の研修会(希望者)とした。 ○補習、小論文や自己推薦文の指導において、役割分担をすることで全体のスキルアップを図ることができた。 【改善の方策】 ●職員の進路情報・生徒情報の共有化を図り、組織的な進路指導を行う。	A		
		進路結果の分析と評価。	・全教職員が進路結果の分析と評価を行い、次年度の指針に役立てる。	【取り組み状況】 ○高大継続改革の一環として、大学入学選抜改革について、職員研修会を実施した。 ○進路指導のスキルアップを図るために、進路マップのデータを面談や進路指導に活用できる職員研修会を実施した。 ○3年次生の進路決定情報を職員に提示し情報を共有した。 【改善の方策】 ●入試改革の情報を共有し、新たな入試制度に対応できるようスキルアップを図る。 ●模試への取り組みについて改善を図り、結果を有効に活用する。	A		

	職業観・勤労観の育成と進路意識の向上	職業観・勤労観を育成するキャリア教育の充実をめぐる。	・「産社」、「総合的な学習の時間」、LHRを中心にキャリア教育に取り組む。 ・「進路だより」を発行し、また、各種ガイダンス、講演会等を実施する。	【取り組み状況】 ○「カタリ場」、「産業社会と人間」、3年次の就職者面接等で、外部講師を招き、進路意識の向上を図った。 ○就業体験を通し、職業に対する意識を高め、勤労観を養った。 ○ガイダンス等に招く大学や専門学校について、本校の進路指導の観点から選択的に依頼した。 ○進路指導室を利用し、積極的に情報収集したり相談したりする生徒が増えて、進路意識を高めることができた。 ○3年次の生徒について、進路選択に向けて、生徒が自己理解を深めて前向きに取り組めるように、指導に取り組んだ。とりわけ、面接指導では多くの職員との協力による指導ができた。 ○2年次生の「総合的な学習の時間」のために、資料提供や模擬面接への参加などの形でバックアップを行ったが、年間を通しての計画的なサポートができなかった。  【改善の方策】 ●キャリア教育の推進に充てる「総合的な学習の時間」の活用について、年度当初から実施計画を共有し、年次との連携をさらに深める。	A
教職員の資質向上	実践的指導力の向上	公開授業週間を利用する等、各教科の研究授業を行うことにより相互の指導力向上を図る体制を整える。	・研究授業を実施し、教科指導力を向上させる。 ・アンケート等について、教科会で分析を行い、研究結果を共有する。	【取り組み状況】 ○オープンスクールに合わせて、公開授業週間を設け、授業分析と指導力向上のための研究を実施した。 ○生徒を対象にした「授業に関するアンケート」を年間3回実施した。 ○わだやマーケットを開催し、700名を超える集客をおこない、生徒の活動状況を見ていただいた。  【改善の方策】 ●授業評価の自己分析と、教科会など複数による分析を図り、より良い授業にするための研究を進める。 ●わだやマーケットを継続し、学びの発表の場として活用する。	A
	計画性を持った研修の実施	学校の諸課題について計画的に研修を企画・実施する。	・計画的に各部による研修を実施し、実践的指導力を向上させる。	【取り組み状況】 ○年度当初に各部で研修計画を検討し、提示されたものを一覧にして年間計画を作成し、ほぼ予定通りの研修を実施することができた。 ○実務的な研修を行い、新たな授業展開ができるきっかけとした。  【改善の方策】 ●他の行事や補習などにより、研修に参加できない状況が見られた。実施時期などできるだけ早い段階で全職員に知らせ資質の向上を図る。 ●タイムリーな研修を増やし、教職員の資質向上とアクティブラーニングを意識した授業展開ができるようになる機会を持つ。	B
危機管理体制の整備	実効ある危機管理マニュアルの策定	各種危機管理マニュアルを作成し、教職員に周知徹底を図るとともに、学校防災・防犯体制の充実に取り組む。	・危機管理対応マニュアルを職員会議・研修会等で教職員に周知徹底を図る。 ・防災や防犯に関する情報を生徒・保護者に周知し、危機回避に努める。	【取り組み状況】 ○緊急対応マニュアルを策定して、緊急対応時の心構えや内容、危機管理について職員会議で周知徹底したが、更なる危機管理意識を高める必要がある。  【改善の方策】 ●次年度の緊急対応マニュアルや消防計画の早期完成を目指し、それを活用した防災教育の充実を図る。 ●危機管理を意識したルール作りをすすめる。	A
	生徒に対する防犯教育の徹底	安全教育の全体計画に基づき、危機的事態への適切なスキルを身に付けさせる。	・安全教育に関する講演会等を実施するとともに、全校集会での講話や日ごろの指導を通し危機に対する意識を高める。 ・ネットトラブルから身を守る方法など、状況に応じた講話を企画する。	【取り組み状況】 ○全校集会やLHRなどさまざまな機会を通じて生徒の危機に対する意識を高めた。 ○ネットトラブルから身を守る方法を聞き、適切な対応の仕方を学んだが、他の分野の講話の企画は出来なかった。  【改善の方策】 ●ネットトラブル、薬物、交通事故、地震なども考え安全教育を進める。	A
自ら学び考える力の育成	体験的・問題解決的な学習の展開	体験的な学習を通して自ら学び考える力を育成する。	・「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」等で、主体的に学ぶ力を身につけさせる。 ・体験的な活動ができるように工夫する。	【取り組み状況】 ○企業見学(2年次)や就業体験(1年次)等、体験型のキャリア教育の推進を図り、社会人に向けての自律を促し、社会に求められる資質や能力を身につけられるよう指導に努めた。就業体験では、生徒の行動が事業所のご迷惑になったケースがあった。  【改善の方策】 ●企業見学については、朝来市およびハローワークのご協力により、新しい体制づくりを実施する。 ●平成30年度より就業体験のあり方を検討し、1年次生全員実施から、2年次就職希望生徒に変更する。	A
	生涯学習の視点に立った実践能力の育成	在り方生き方を考えさせ、興味・関心・進路などに応じて意欲的な科目選択ができるように指導する。	・自分を見つめ、「自己の在り方・生き方」を考えさせる指導を行う。 ・各自の興味・関心・進路希望に応じた科目選択ができるように指導する。 ・担任・教科によるキャリアカウンセリングの体制をつくる。	【取り組み状況】 ○各自の興味・関心・進路希望に応じた科目選択を推進するため「科目選択ガイダンス」を実施している。より適切な選択を進めるための職員間連携や保護者に対する説明が課題である。 ○コースおよび進路系統別のモデルプランを作成した。  【改善の方策】 ●科目選択に向けての職員の連携と保護者説明会を実施する。 ●設置科目の精選し、より適切なモデルプランを提示する。	B
	評価方法の創意工夫	多様な生徒に対応するため明確な評価規準を作成し評価方法を確立する。	・各教科・科目ごとに評価規準を工夫し、具体的な評価方法を作成するとともに、生徒に明確に告知する。	【取り組み状況】 ○全生徒への授業評価を実施し、改善の糸口となった。  【改善の方策】 ●授業評価の活用方法と各教科ごとにすすめる。	A
基礎・基本の定着	生徒の学力の把握と個に応じた学習指導の工夫	生徒の学力を適切に把握し、個々に応じたきめ細かい指導に努める。	・ティームティーチングや個々の生徒に応じたきめ細かい目標を定め、指導を徹底する。	【取り組み状況】 ○ティームティーチングによるきめ細かい学習指導と、習熟度別・少人数授業を展開した。 ○基礎学力の定着および学力伸長を図るための授業を実施したが、教科単位での学力伸長に対する対策が必要である。  【改善の方策】 ●少人数指導による学習効果を高める指導の研究をさらに進めていく。 ●各教科の授業単位で、基礎学力向上のための学習を取り入れる。	A
	学ぶ喜びや達成感が味わえる指導方法の工夫	興味・関心を持って学ぶことができ、分かる授業を展開する。	・生徒による授業評価を行い、授業改善に努め、分かる授業を実現する。	【取り組み状況】 ○授業に関するアンケート分析や研究授業分析を実施し、情報共有及び授業改善を行った。 ○アンケート結果に基づき、授業の改善点の生徒へのフィードバックを行った。  【改善の方策】 ●生徒が主体的・能動的に学習に臨む授業の研究を推進し、自ら学ぶという意欲と態度を育てる。 ●短焦点型プロジェクターの活用方法の研究を進め、効果的・効率的な授業展開をすすめる。	A
	学習習慣確立の指導	生徒の家庭学習習慣確立のための指導を行う。	・計画的な家庭学習の指導と、教科・年次等による学習課題の指示や小テストの実施によって家庭学習の習慣を図る。	【取り組み状況】 ○1年次生向けには、高等学校での学びのための初期学習指導を行った。 ○週末課題や長期休業課題、課題に関連したテスト等を実施し、家庭学習の習慣化を目指した。 ○課題の出し方、家庭学習の定着へむけた取組に改善の余地が見られた。 ○2年次生では、長期休業課題の徹底した提出回収と課題テストの実施や進路別補習の課題を通して家庭学習の定着を目指した。 ○3年次生については進路実現をはかるために概ね学校での学習活動や自宅学習に専念することができた。  【改善の方策】 ●生徒の習熟度に応じた課題の出し方の研究を進める。 ●家庭学習定着に繋がった手法を教科間で共有し、学校全体の取組として発展させる。 ●長期休業中課題については、各教科のバランスを考える。	C

課題教育	総合的な学習の時間	教職員の協働体制の確立	総合的な学習の時間の位置づけや内容について共通理解を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年次では、「自己の在り方・生き方」を考えさせ、希望進路を具体化させる。</li> <li>・3年次では、自己を十分理解し、自己実現ができる内容とさせる。</li> <li>・2、3年次「総学」において、キャリア教育の視点から指導の継続性を研究する。</li> </ul>	<p>【取り組み状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「総合的な学習の時間」では、キャリア教育及び、今年度より始めた「わだやマーケット」の実施に対する準備に重点を置き、社会人・職業人としての基礎的な資質・能力の涵養を図った。来年度は授業内容も含めて地域との交流を含めた活動を企画して「わだやマーケット」の更なる発展につなげるのが課題である。</li> <li>【改善の方策】</li> <li>●キャリア教育部・総合学科推進部・教務部・各年次が「総合的な学習の時間」や「産社」の活用について、きめの細かい連携を深める必要がある。</li> </ul>	B
	防災・安全教育	教員の防災教育に係る指導力・実践力の向上	救急・災害時における生徒の安全確保の意識と技術の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救命救急講習会を実施し、生徒の安全確保に努める。</li> <li>・防災訓練で生徒の避難誘導と安全確保に関する教職員の意識と技術向上に努める。</li> </ul>	<p>【取り組み状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○アレルギーマスク・熱中症対応・AEDの使用法など救急救命法について、生徒と職員の合同講習会を実践的な形で行うことができた。</li> <li>○体育大会に向けて、熱中症予防対策のための注意喚起や給水体制の整備・テントの設置などの対策を講じたが、結果的には多数の熱中症が発生した。</li> <li>○三年次生を対象に、性の問題を通して自他のいのちを大切にすることを意識を持たせるための講演会を行った。</li> <li>○防災訓練日時、火災の発生場所等を事前に知らせず実施したことにより、より実践的な訓練となった。</li> <li>【改善の方策】</li> <li>●体育大会の時期について再検討するとともに、緊急時の救急体制を整える。</li> </ul>	A
		実践的な安全教育への取組	通学路の安全確保と安全指導の徹底を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通学路での立ち番指導を行い、自転車の二人乗りや傘さし運転の禁止等交通規則の遵守を指導する。</li> </ul>	<p>【取り組み状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○毎朝、職員による立ち番指導(駅、通学路、校門付近)を実施し、交通ルールの遵守指導を行った。</li> <li>○改善しよくなったが、スマホを操作する「ながら運転」の指導が増えた。</li> <li>【改善の方策】</li> <li>●引き続き、交通ルール違反(二人乗り、傘さし運転、ながら運転等)をする者については、家庭、年次、生徒指導部がさらに連携を深め、指導を行う。</li> </ul>	A
	人権道德教育	人権道德教育推進体制の確立	人権道德教育の推進体制を確立し、その充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間を見通した全体計画に基づき、年次ごとの適切な年間指導計画を作成し、計画的に実施する。ホームルームを核に、あらゆる機会を通して、人権を相互に尊重し人としての生き方・あり方を考えさせる。</li> </ul>	<p>【取り組み状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○アニメ「めぐるみ」を全学年鑑賞し、人権について考える機会を持った。</li> <li>【改善の方策】</li> <li>●一部だが、人権意識が希薄な生徒がSNSの書き込みで特別指導があった。今後は早期に注意喚起をおこなう。</li> <li>●生活指導・教育相談との連携をさらに深め、生徒が自ら、人としての生き方・あり方を考えられるように研究を進める。</li> </ul>	A
	体験活動	高校生就業体験事業	高校生就業体験(インターンシップ)事業を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が進路開拓上役立つ職場で就業体験(1年次対象)を実施する。準備段階から保護者・企業等との緊密な連携を図り、より意味のある就業体験になるように努力する。</li> </ul>	<p>【取り組み状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○就業体験事業において、受入れ事業所と訪問生徒との温度差により、ご迷惑をおかけしたケースが目立った。</li> <li>○1年次生全員を対象としてきたが、生徒の進路選択に必ずしも合致せず、期待した効果をあげられているとはいえない部分がある。</li> <li>【改善の方策】</li> <li>●1年次生全員実施から、2年次生の就職希望者を中心とした事業に変更し、より充実した取組になるよう改善を図る。</li> </ul>	C
	高校生ふるさと貢献事業	ふるさと貢献活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のさまざまな行事に参加し、地域の人々との交流や近隣の学校との交流を行う。</li> <li>・できるだけ多くの生徒がボランティア活動に参加し、福祉施設との交流や清掃美化活動等に取り組む。</li> </ul>	<p>【取り組み状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本年度初の取組「わだやマーケット」に約750名の方々にご来校いただき、ふるさとを愛し、地域に貢献できる人材の育成に努めた。</li> <li>○各種ボランティアへの参加も増加し、新聞等に掲載いただく機会が増え、本校のボランティア活動は周知されつつある。</li> <li>【改善の方策】</li> <li>●「わだやマーケット」では、1年次生の参加できる部分が少なかったため、より全校的な取組であることを生徒に自覚させ、すべての生徒・教員により実施できるように改善する。</li> <li>●ボランティア内容によっては参加希望が少なくなるため、全校集会などを利用して多くの生徒に呼びかけを行う。</li> </ul>	A	